

8-3 ランバレネ淡水漁業

ランバレネ市人口10,000人(半農半漁)

多数の湖・沼が漁民の主漁場となっている。 漁村数 7 専漁民 50名

カヌー数 98隻 船外機(6~20HP程度)普及率60%

主要漁具 刺網、投網、底延縄(300m程度)、ヤナー

魚種 テラピア、ナマズ、ボラ(内、テラピアは全体の80%である)。

75年度漁獲量 100ton

魚期 1~3月、6~8月

雨期のある又、多雨国ガボンには内陸部においては縦横に多数の河川が走り、それらの流域に接続する湖沼が多数存在する、これらの湖沼はラグーン同様栄養分に恵まれ可成の魚類が棲息するものと思われる。

しかしラグーン同様それらの内水面の生物相や資源の状態については全くの知見は得られていない。滞在中、ランバレネ市を流れるオグウエ川とそれに接続する湖沼をカヌーにより視察したが、いづれも漁民の住居しているとみられる民家が散発的に周辺の岸辺にいくつか存在しているだけで、僅かに1-2隻のカヌーによる刺網の漁業をみる程度であり、活動的な漁業状況を見ることはできなかった。

同地域職員よりの事情聴取によると、ここより内陸部にかけての魚の嗜好性はテラピア、ナマズ等の淡水魚類のほうが海産魚類より、はるかに強く、又この地域においても、海産品の魚を見るのは、雨期の時期、漁が行われない時に、遠くリービルビル等の沿岸地方より、運ばれてくる、燻製もしくは、塩干品による消費程度であると言うことであった。

しかし、我々が調べたところでは、一般消費者は、淡水も好むが、海産性の物も同様の好み方が強く、言えれば、沿岸より内陸に通じる道路事情の悪さから、これら海産魚類の輸送と貯蔵等の問題もあるようで、このランバレネにおいても冷蔵施設などはない状態である。ランバレネ下流は海まで150Kmも離れており、ここは全周辺が湖沼地帯になっている関係からガボンにおける淡水魚の漁獲生産は殆んどがこの地域により出荷されており、中心的な役割をしている地でもある。

盛漁期には、首都リービルビル又はここより奥の内陸部の地よりトラックによる氷づめによる淡水魚の出荷を行われており、いづれも氷等は、出発地の場所から積みこまれ、この地で魚と氷のまぶし方法で輸送されている。

ここにおけるテラピア等の鮮魚の引き取り値は、国の統制価格に従って一般はKg当り225CFAで取り引きされており、反対にこれらが燻製品になると、現在はこれらについては制度が定まっていないことから、燻製品については、Kg当りの550~600CFAと高価で市場等で売られている。現在のここで最大の問題はオムボエ同様、氷蔵等の冷蔵庫の施設がまだ

なく、鮮魚保持が悪く又価格の低値につながるのとことから、製氷工場等の建設を政府に要請中である。

1975年度におけるラグーン及び湖沼漁業の実態は下記の通りである。

漁 船 数

| タイプ | 隻 数 |
|-------------------------------|-----|
| PIROGUES SIMPLES (船外機なしカヌー) | 500 |
| PIROGUES MOTORISEES (船外機付カヌー) | 285 |
| PIROGUES á VOILES (帆走カヌー) | 15 |
| 計 | 800 |

船外機はいづれも6~40IP程度のものであり、全隻数の35%の普及である。

漁業従事者

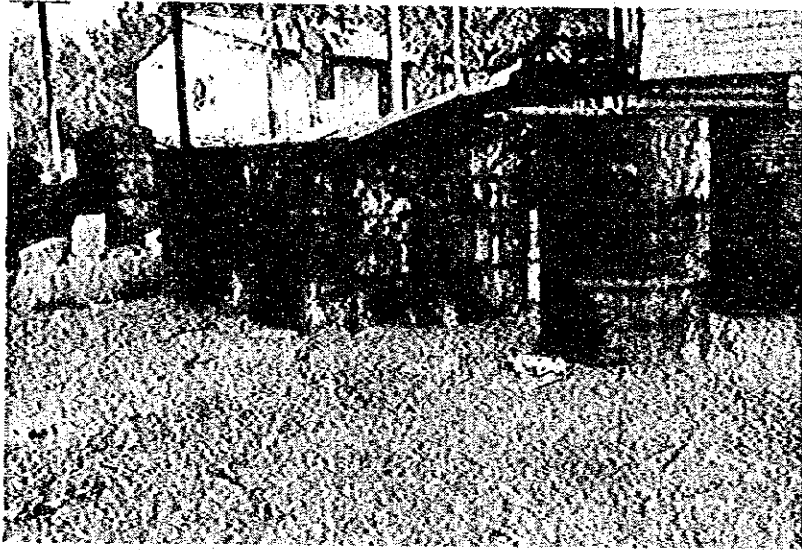
| | |
|--------------------------|-----|
| ESTUAIRE (リービルビル附付) | 500 |
| OGOOUÉ-MARITIME (オムボエ地域) | 200 |
| MAYUMBA (マユンバ地域) | 50 |
| MOYEN OGOOUÉ (ランバレネ地域) | 50 |
| 計 | 800 |

漁獲物水揚量

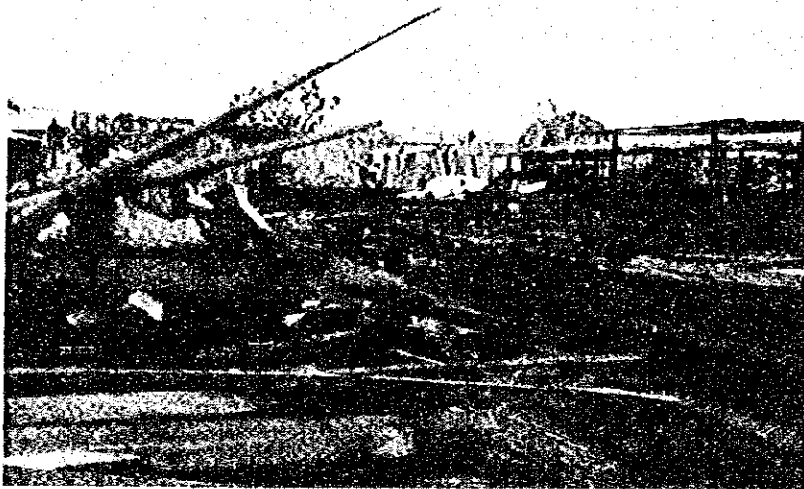
(ton)

| 地 域 | 水 揚 量 |
|------------------------------|-------|
| ESTUAIRE (リービルビル附近) | 1,300 |
| OGOOUÉ PORT-GENTIL (ポートジェンテ) | 1,090 |
| MARITIME OMOUÉ (オムボエ) | 300 |
| MAYUMBA (マユンバ地域) | 310 |
| MOYEN OGOOUÉ (ランバレネ地域) | 100 |
| 計 | 3,100 |

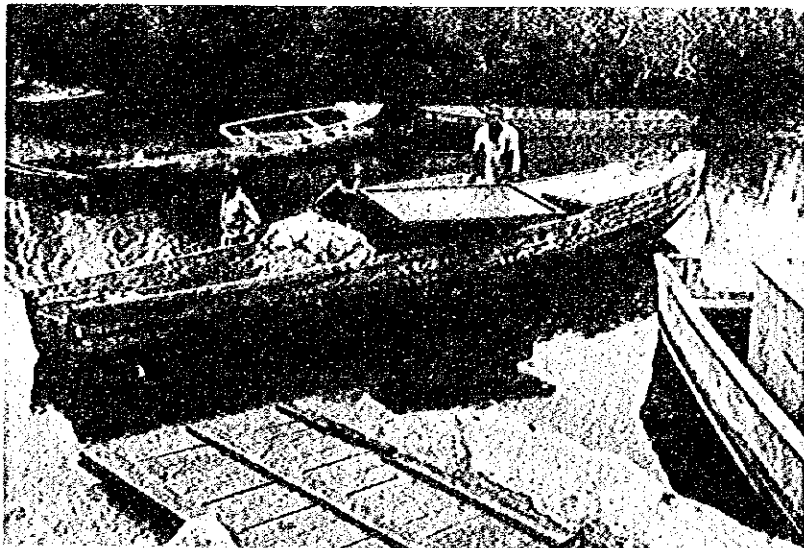
75年度漁業従事者年間1人当り水揚量3.8 ton、売り上高500,000CFA (1CFA=円貨1円)。



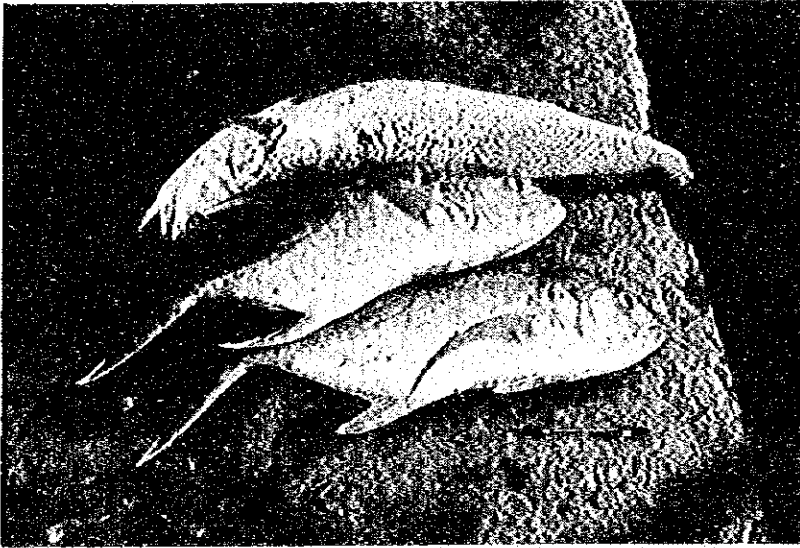
ACAEのダホメ人漁村の
燻製品加工場



AVIATIONのナイジェリア
人の漁村燻製品加工場



ナイジェリア漁師の旋網漁船



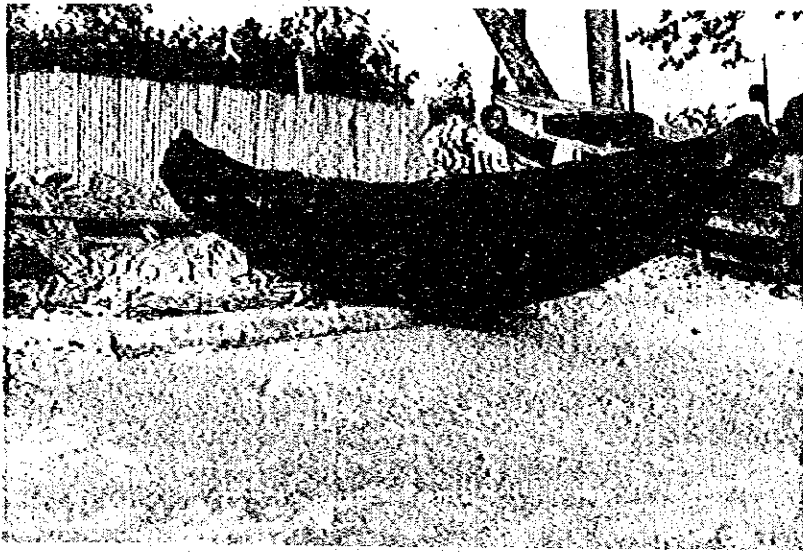
旋網によって獲れた
ニペ、ヒラアジ



リービルビル、ACAB
漁村のカヌー群



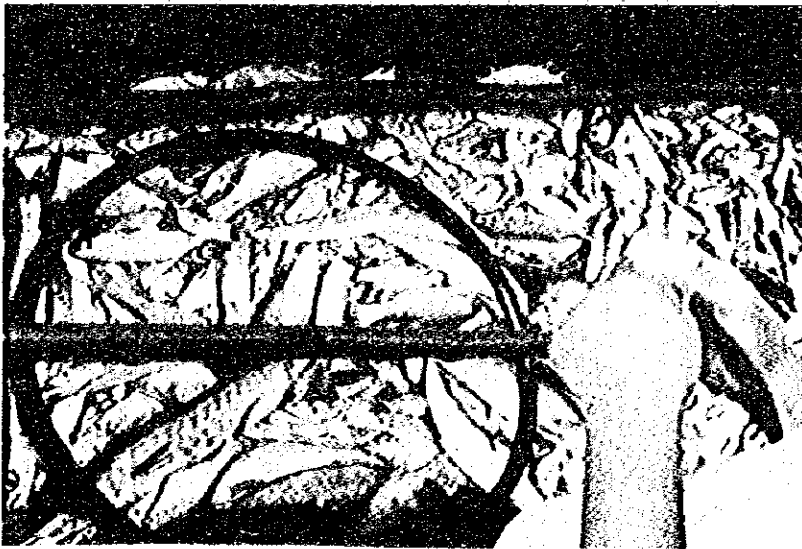
ダボメ人の刺網漁船



新造カヌーの焼入れ
(給食虫予防のため)



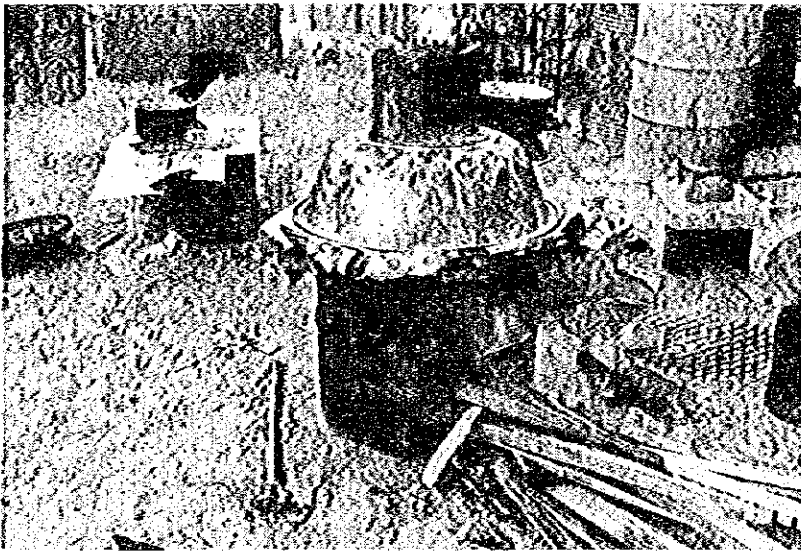
漁獲物販売風景



旋網による漁獲物
(カマス、タチウオ、ボラ)



ACA E漁村における
マニオイカ製形



マニオイカの蒸し器

8-4 養殖漁業

ガボンには海洋魚種、淡水には、テラピア、ナマズと言った養殖事業を発展させるに十分な背景を持っていながら、いまだ養殖についての主だった活動及び研究は実施されていない。

局には養殖課があることはあるが、職員も池の管理をただするといった程度であり、文献やその他これらに関する資料も無皆に近い状態である。

リービルルの水産局、うらには簡単な養殖池があり、始めはフランス人によって18面(20×10m)の池があったが、管理の不十分から現在は6面しか使用されていない。これらの池には現在、一部内陸部より獲ってきた、テラピア、ナマズの幼魚5cm程に大きくなったものを、各2kgづつ混養しており、餌料は一日一回、米ぬか、又はタロイモのすりつぶしをあたへ、彼等の話しでは、ナマズについては、3月程で15cm/700gにも成長するとのことであった。

以前はザイルーからはるばる種苗を買入れたこともあるが、現在は前述の内陸の湖沼で取れたもの、他に、池において成魚が自然産卵しふ化した幼魚を取ったものが、多く使われているとのことである。

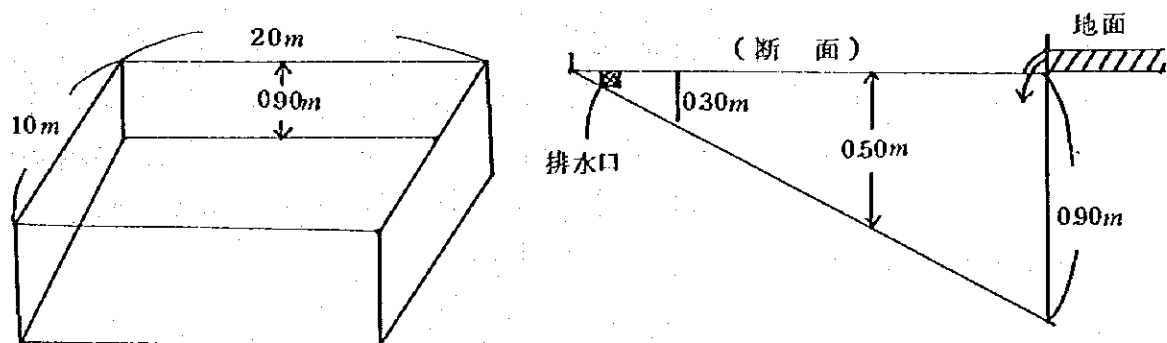
今年は特に職員の1名をコートジボアルにある研究所に派遣する予定があり、遅まきながら、しだいにその養殖事業に対する重要性をガボンも認めてきているらしいがうかがわれるのだが、困難な状態である。

ガボンにおける養殖を行い、又普及につとめる上での問題点には次のようなものがある。

- ① 技術者、不足。
- ② 海、淡水共にはっきりした魚種をつかめていない。
- ③ 適格な魚種の研究が行われていない。
- ④ 養殖池等の改良改善がなされない。
- ⑤ 種苗生産の不足。
- ⑥ 高度を用するため、参加者が少ない。

以上のようにざっと考えられる物だけでも、これだけ関係しており、又局全体の養殖に対する計画などは、まったく興味薄といった感である。

現在ある池の構造は次のようなものである。



池の水は近くのわき水を使用している。

8-5 入 漁 料

ガボンには自国民の漁師が行われていないことから、沿岸については近隣のカメルーン、コンゴ、ベニン等の移り住みついたこれらの人皆によって漁獲されるものと、沖合については私人経営の近海トロール及び、コンゴとの政府間取極によるコンゴ船の操業、または、スペインよりのチャーター船による漁獲物の水揚げに、まかなわれている。

沿岸に移り住みついた者たちへのガボン沿岸における漁業を専業とする上での入漁料といったものは現在、かせられていないが、近海トロール船、及び、外国籍の漁船については、下記の入漁料を定めている。

沿岸漁民には、漁業許可書の取得を義務づけている。(手数料なし)

ガボン籍を取得している漁船・魚類専用船のトン数×5,000CFA(年間)

エビ等甲殻類専用 # ×10,000CFA #

ガボン籍を有しない漁船・魚類専用船のトン数×15,000CFA(年間)

エビ等甲殻類専用 # ×30,000CFA #

他にガボン船、外国船共に岸壁使用料

150トン以下 月 15,000CFA

150トン以上 月 25,000CFA

現在ガボン領海(100マイル)に入漁している隻数は下記の通り

コンゴとの政府間取極による 7隻 トロール船 120ton級

スペイン(チャータ方式) 3隻 トロール船 260ton級

今年10月よりナイジェリアにある現地との合併OSADJERE社(大洋漁業30%)が、ガボン近海トロール漁を開始する事になっている。(去年は試験操業許可による)

OSADJEREはナイジェリア、ラボスを基地として置いており、今回操業に廻す船は2隻180ton、日本人は船長、機関長、漁撈長、その他はすべてナイジェリア人によって構成されている。入漁に際しては上記の入漁料のほか漁獲量の10%の魚類の水揚げを状件として義務づけられている。

水産会社のトロール船及びその他漁船の現況

EVEN社 9隻(1隻底立縄釣) INCOOEGA社 1隻(34ton底立縄釣)

ROUX社 2隻(147ton, 119ton) MAUOU社 2隻(106tonトロール, 20刺網)

LOEMBE社 1隻(74tonトロール) CARDOT社 1隻(210tonトロール)

DASAWA社 1隻(21ton底刺網)

8-6 諸外国との漁業協力

FAO関係

冷蔵庫施設設置及び内陸部への流通手段の策定について調査を要請したが、いまだ調査団等の訪ガをみていない。

ルーマニア

1977年3月漁業協力ミッションが来ガしたが、最終締結がされていない。

ルーマニアはガボンにおいて300~100tonの4隻スターントロール船を入漁させ、トロールとマグロの操業を実施する事を提案したが、ガ側の希望する沿岸漁業発展にそぐわないとの理由から、沖合漁業の開発を望むルーマニアと交渉の段階で協議は中止されたままである。

ソ 連

首都リービルビル附近に、海洋試験場を設立する案が出たが、その後進展のきざしまったくない。

ス ペ イ ン

カツオ、マグロ、トロール漁業等の合併事業の設立案を出したが、沿岸漁業振興にいつれも、そぐわないとの理由により中止されている。

韓 国

漁船の入漁、合併の話はいまのところないが、1974年にプサンにあるFAO漁業訓練センターに2名研修派遣したが、語学(英語)の問題で研修途中4月で帰国した。その後(6カ月コース)、同センターへの研修派遣は実施されていない。

9. ま と め

今次調査開始するに際し、日本側はすでに2回にわたる協議チームを派遣し、当該調査における、S/W案の取扱い細分の打合せを実施し、本格的調査（今次）が開始される事前においても準備チームを派遣し、双方が分担事項について再度確認したにもかかわらず、実態は以上のような経緯を経て、同計画に対する十分な活動も実施できず、いったん中止という結果に終了してしまった。

今回の調査に参加し我々が滞在中感じたこと及び、今後の同計画の進め方について少し述べてみたい。

現在のガボン経済は非常に苦しい時期であり、又、反面国内にあっては、道路、橋梁等公共事業、新規工場設立等産業開発及び住宅、病院、医療、学校等の建設の拡充等の数多くの施策に重点を置くとともに、今調査の要請にも書かれている第3次5カ年計画の一環としている、第一次産業開発の基盤ともいわれる農水産の開発計画を推進する政策をかかっているが、国の財政の半分以上をフランスよりの借款にたよらざるを得ないといった状態である。

一部の公務員の給与もここ2、3カ月支給されていないところもあり、他の諸外国との協力事業も中断しているといった状況である。

我々の協力分野においても当然のごとく予算等の措置の遅れから種々の問題が発生し一応それらの問題点を整理してみると次のようなものである。

1. ガ側の当該調査に伴う分担部分における予算措置の遅れ
2. カンターボート及び漁民の不準
3. 事務所等業務施設の確保困難
4. オムボエ冷蔵庫の未修理
5. 輸送手段の手配不備
6. 調査地における宿泊施設の確保困難

特に予算措置の遅れは我々が調査船及び資機材の引き取りについて、これらに必要な経費の支払が決まらず、40日以上も日数をついやすといった、我々も思ってもいなかった事態が起り、又その後の調査船の修理を必要とする結果をまねいたことは、ガ側の今調査に対する対応の不充分さが起因されたと思料されても、けっして過言ではないだろう。

協力体制についても、この種の水産協力分野の受け入れ等は初めてとも言われ、よって受け入れ国としての義務及び負担を円滑に取り進めるといった協力事業に対する不なれさは確かである。（技術協力の処女地）

元来ガボン人は狩猟民族であり、現在の国の経済についても木材と、石油等の鉱物資源に完全に頼っており、農水産業の背景は従来より、ほとんど存在していない。

人口が少なく、超完全雇用の国でもあり、この国の人々は生活も安易に過せるといったことで、彼等の性格も愛想がよく、知らない人でも、道で会えば挨拶するほど、いたって純朴で温和である。

水産局は1972年に設立された、まだ新しい局であり、配属されている職員も平均年齢24才といった若い人たちによって構成されている。これら職員の出身地を調べてみてもすべての者が、沿岸地方とは反対の内陸よりの出身者で占められており、海を見る事も、水産局に採用されるまでは見たこともないといったところで、よって、当然のごとく水産に対する認識、漁業に対しての馴染は薄いことは、確かであるが、これら若い職員たちは、この国の将来の漁業事業の振興を發展させるべき、中心的な役割をはたしてゆかなければならないと言った熱意を持っていることは、我々は素直に認めなければならないだろう。

ガボンの現状の漁業の実態は零細な漁民が、自給自足の目的で行われており、それらはまた、非生産的な方法で広い地域に分散して営んでいる。魚種の潜在的な需要及び必要性が、重大でありながら、これらの効果的な施策がいままでほとんど行われていないのが現状である。

当該調査についての主旨は、沿岸水産資源調査といったところに重点を置いているが、これらの現状、ガボン水産を見れば、これら原始的な形態の各段階における漁業が主であるということとを再認識し要点をつかみ、これらに対する、地道な、たとえば、漁業の魅力、又は漁獲量の増大をはかるといった、早速な地域漁民に波及的効果をもたらすような漁業協力を確実に行ってこれらのレベルアップをさせるといった方法が、急務ではないかと思われた。

地道でキメの細かい方法が地域社会の開発につながり、将来のガボン漁業全体のレベルアップにつながることを認識し、従って、我々の協力も（飛躍的な考に定置しない。）この様な背景を認め、方針で対処してゆかなければ、効果はあがらないと思われる。

ガボン人の欠点は計画性が乏しく、締めくくりが1人で、できないといったことが言われ、当該調査についても、当初より、国の5カ年計画の一環として政策を打ち出しているにもかかわらず、実際には、予算的な措置もしないまま、実施をうながすような方向を出したり、物事に対し、簡単に処理をしたりするような安易な性格がある。これらを見ても現在までにこの国における、ガボン人のみによる企業が殆んど行われていないといったことにも起因として表われている。

それゆえ、今後の水産協力を進めてゆくうえにおいても、これらの事を充分認識し、日本側においてもそれらの場合の我方の対処等につき検討を行わなければならない。再度調査開始の際には十分にガ側の受入れ体制等については、くどいぐらい確認は必要であろう。又、協力活動に不可決のカウンターパート及び専門家の生活環境等の最低限度の条件の確立に今後双方が、努力を重ねてゆかなければならないだろう。本調査の実施に当り、ガボン政府当局者、在日本大使館関係者、業界当事者の方がたも、惜みなき協力を与えられた。あわせて、厚く御礼申上げる次第である。

別 添 資 料

(S/W案訳文)

(I) ガボン共和国における水産資源開発試験調査(沿岸)

I 序 論

日本国政府は、ガボン共和国政府の要請に基づき、昭和52年3月実施した漁業開発のための陸上調査の結果、同国政府が計画しているオムボエ周辺水域の沿岸水産資源開発試験調査を実施することに決定した。

この決定に基づき、日本政府の技術協力計画を実施するための機関である国際協力事業団(JICA)は、本調査を実施し、ガボン共和国政府の緊密な協力のもとに行うものである。

II 調査の内容

1. 目 的

オムボエ周辺水域における沿岸水産資源開発の可能性を明らかにし、ガボン国の小規模漁業振興に資することを目的とする。

2. 調査海域

- 1) 漁獲試験 オムボエ周辺水域
- 2) 調査基地 オムボエ

3. 調査の大要

1) 調査の主目的

オムボエ周辺水域における魚類の漁獲試験

2) 調査事項

(a) 漁場環境調査

気象(天候、風向、風力、気温、気圧)

海象(波浪、水温、水深、水色、透明度、底質)

(b) 漁獲試験

操業月日、月令、操業位置、操業開始時、終了時、操業時間

漁具種類、餌種、魚種別漁獲量

(c) 生物調査

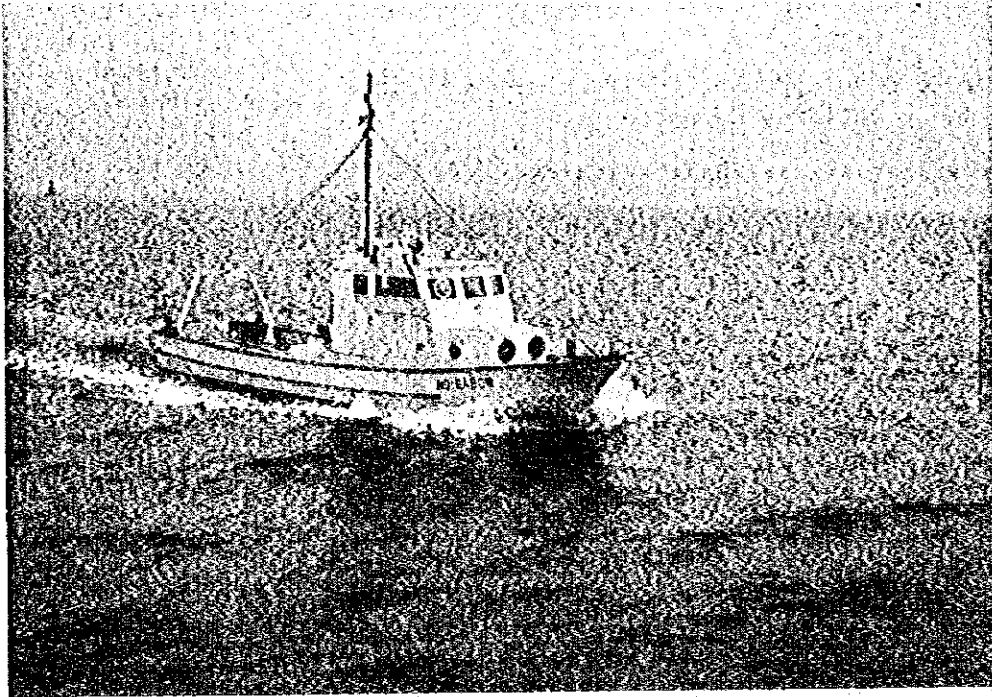
魚種組成、体長組成、体重組成

3) 漁具漁法

刺網、棒受網、底曳、延縄(浮、底)、一本釣、手釣

4) 漁獲物

調査船の漁獲物は調査用サンプルを除き、あらかじめ定められた岸壁において、ガボ



沿岸水産資源調査船

| | | | |
|------|--|--------------|----------------|
| 船名 | NO.1 GABON (ガボン) | | |
| 総トン数 | 10 ton | | |
| 主要寸法 | (長さ) 13 m × (巾) 2.90 m × (深さ) 0.90 m | | |
| 機関 | ヤンマー 4ESDE、ディーゼルエンジン 50 PS × 1,500 RPM | | |
| 速力 | 最高 11.67 ノット | 定格 7.57 ノット | |
| 定員 | 10名 | | |
| 漁倉 | 1.85 m ³ | | |
| 燃料 | 500 l | 水 120 l | |
| 航海日数 | 2日 | | |
| 装備 | ウインチ (トロール用) | アワクナ 15ton | 毎分 30 m 巻上げ 1台 |
| | レーダー | フルノ製 FR3-24型 | 1台 |
| | 漁探 | 光電製 SR-657型 | 1台 |

_____))
_____))
PROGRAMME DES TRAVAUX

Etude sur le développement des ressources marines
côtières au Gabon

I. Introduction :

A la demande du Gouvernement Gabonais, le Gouvernement Japonais envoya une mission chargée d'étude préliminaire sur le développement de la pêche au Gabon, au mois de mars 1977.

Le Gouvernement Gabonais, ayant tenu compte du résultat obtenu de la mission mentionnée ci-dessus, décida de s'engager à une étude sur le développement des ressources marines côtières du Gabon et l'Agence de la Coopération Internationale du Japon (Japon International Coopération Agency, JICA), Agence officielle chargée d'exécution des programmes de la coopération technique d'outre-mer du Gouvernement Japonais, effectuera cette étude en étroite coopération avec le Gouvernement Gabonais.

II. Plan d'étude :

1. Objectif :

La présente étude a comme objectif de mettre en évidence les possibilités de mise en valeur des ressources marines côtières des eaux aux alentours d'Omboué, afin de contribuer au développement de la pêche artisanale gabonaise.

2. Zône d'eaux étudiée :

1) - Prise d'essai : Eaux aux alentours d'Omboué

2) - Base centrale d'étude : Omboué

3. Plan général d'étude :

1) - Principal objectif d'étude

Prise d'essai des poissons dans les eaux aux alentours d'Omboué

2) - Chapitres étudiés

a) Etude sur les environnements des pêcheries :

Conditions climatiques (climat, orientation et vitesse du vent, température, pression atmosphérique).

Climat marin (marée, température, profondeur, couleur et degré de transparence des eaux, caractéristiques du fond)

b)- Etude biologique :

Composition des espèces, dimension, poids.

3) - Instruments et techniques de pêche

Araignée, filet à piquet, s he, traîne (flottante, fond)
Canne à pêche au fil

4)- Traitement des prises :

Toutes les prises du navire d'études seront livrées au Gabon au quai préalablement déterminé, sauf les spécimens d'étude.

4. Rapport :

Le rapport sur les résultats sera expédié à l'adresse du gouvernement gabonais dans le délai de six mois après la fin d'étude.

Il sera traduit par les Experts japonais, en langue française.

5. Répartition des charges :

1)- Seront à la charge japonaise :

1)- Fourniture du navire d'étude et des appareils nécessaires.

2)- Frais des combustibles du navire d'étude et frais de réparations du navire:

3)- Envoi de deux Experts ;

4)- Analyse des résultats et rédaction du rapport final en association avec les Experts gabonais.

2)- Seront à la charge gabonaise :

1)- Informations préalables sur la présente étude auprès des organismes locaux intéressés (police, pêcheurs)

2)- Garantie de sécurité et protection des Experts, du navire et des appareils ;

3)- Facilités concernant les installations de ravitaillement en combustibles, en eaux, etc... et celles de réparation du navire et autres ;

4)- Disposition nécessaire concernant les transports (véhicules, bateaux auxiliaires) ;

5)- Frais de correspondance (P.TT. - Téléx, etc...) à l'intérieur du Gabon ;

6)- Présentation des informations et données nécessaires pour l'étude ;

- 7)- Mise à la disposition des installations pour faciliter le travail des Experts (Bureau d'étude, entrepôts pour matériel ;
- 8)- Envoi de 6 Experts contre-parties (3 pêcheurs, 2 statisticiens, 1 technicien ;
- 9)- Offre de logement pour les Experts ;
- 10)- Exemption des taxes et impôts sur le revenu frappant les deux Experts à la condition que leurs salaires ne soient pas versés par un employeur résident au Gabon ;
- 10 bis)- Exemption des droits et taxes sur les effets personnels de ces deux Experts ainsi que ceux frappant le navire et les appareils utilisés pour l'étude.
 - 1)- Tonnage 4,86 tonnes brutes
 - 2)- Dimensions 12 78 x 2.90 x 1.48 m
 - 3)- Moteur 74 CV/1.800 tpm
 - 4)- Capacité du réservoir
 - 1)- Réservoir de poisson 9
 - 2)- Réservoir de combustible 530 litres
 - 5)- avec commande à distance et tente
 - 6)- nombre de passagers 9 à 10 personnes

6. Object de consultations.

Toutes modifications importantes apportées au plan d'étude seront soumises aux consultations des deux parties intéressées.

Agence de la Coopération
Internationale du Japon (JICA)

Ministère des Eaux et Forêts
Chargé du Reboisement

Le Chef de la Délégation :

Le Directeur des Chasses et Pêches :

Jean Julien BIGNUMBA

Annexe I :

Programme

1977

1978

1979

8 9 10 11 12

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

consultation

étude phase I

étude phase II

1980

1 2 3 4 5 6

préparation
du rapport

construction
du navire.

(議事録訳文)

(2) 議 事 録

日本人専門家と水産局とのガボン水産協力についての協議

日本人専門家は1978年(2月10、3月9日、3月21日)オムボエ、ポートジェンテ、ランパレネ等の各地域において調査事項(住居等)その他について調査を実施した。

| | | |
|---------|----------------------|-----------|
| 日本側出席者 | 齊 藤 宏 | } 日本人専門家 |
| | 野 田 善 作 | |
| | 岡 田 照 夫 | 在日本大使館参事官 |
| | 鈴 木 章 二 | 書記官 |
| ガボン側出席者 | Jeun Sulien Bigaumba | 狩猟水産局々長 |
| | Antoine Nbogho Eyi | 次長 |
| | Jacob Ondo Eyi | 職員 |
| | Felix Biwono | 職員 |

水産局と日本人専門家は2月10日~3月27日、水産開発協力実施計画についての問題の協議を行った。

また、同調査が本格的に開始されるに際し事前におけるガボン側の協力事項たとえば諸施設等の準備について及び当該調査が円滑に遂行されるべき方法について協議した。それらは、実施調査及び水産開発計画の改善についてのためでもある。

協 議 内 容

1. 専門家の住居についての改善
2. 当該調査に使用される調査船の、ガボン沿岸における航行の保障(リービルビル・ポートジェンテ、オムボエ)
3. 指導対象漁民の事前選考を行と共に乗船される漁民の保障
4. カヌー等小艇についても指導協力してほしい
5. 調査実施に際しフランス語の出来る人をつけられるよう希望する。

なお、今回の調査にはガボン側より水産局職員(2名)が調査に同行し、専門家とそれら調査によって得た結果を検討しそれに基づき作成されたものである。

また、最終議事録を作成を行うにさきだち、3月24日に双方がこれらの問題について意見を出し協議を実施した。

(覚え書訳文)

覚 え 書

我々調査員は1978年2月10日から3月27日までの間貴国をおとずれ、すでに双方合意している。ガボン共和国沿岸水産資源調査の実施計画に基づき、4月以降より実施される本格的調査を円滑に行うため必要な事項の処理ないし準備を目的し調査を実施した。

調査には、水産局職員が同行者として派遣され首都リービルビル近辺の漁業関連施設や漁村を調査し、また、ガボン第二の都市ポートジェンテ、ラグーン漁業の中心地オムボエ等の各地域のそれぞれの水産事情について調査を実施した。

我々調査員はこれら調査によって得た結果に基づき、水産局々長をはじめ、各担当者と協議検討を行った結果、今後の調査を円滑に遂行するために、当該調査が始る事前における、ガ側の分担事項についての処理ないし準備を要請すると共にわが国より提供される。当該調査に必要な調査船及び調査資機材の使用目的、取り扱い等の取決めについて下記の通りガ側と確認した。

1. 調査海域

- 1) 計画案、条項第2-2(1)全文を削除し、替りにオムボエ水域並びにガボン沿岸水域と訂正する。
- 2) 計画案、条項第2-2(2)オムボエの次に新たにポートジェンテ及びリービルビルを加える。
- 3) 計画案、条項第2-3(1)のオムボエ水域の次にガボン沿岸水域を加える。

2. ガボン側分担

- 1) 本件調査についての各現地関係機関(警察、港湾、漁業者)への事前連絡の周知徹底
- 2) 調査に必要な小艇の手配
- 3) 調査に必要なデータ、情報及び当該水域における海図等の提供
- 4) オムボエの冷蔵施設の早期修理実施
- 5) カウンターパート2名及び指導対象漁民の確定と履歴等の事前の通知
- 6) 調査用施設の準備及び整備
- 7) 調査員用、住居の決定
- 8) 調査船及び資機材のガ国到着の際における関係機関等への手続実施
(通関、海上輸送局、試験操業許可書等の申請)

3. 資機材の取扱(調査船含む)

- 1) 資機材は日本人調査員の監督監理のもとに当該調査目的のみに使用されるものとする。

- 2) 調査船の運用管理については調査員は水産局々長と連絡を密にして取扱いものとする。
- 3) 調査船及び資機材の使用については当該調査期間を通じ調査員の指導に基づき取扱いものとする。
- 4) 調査終了後の調査船及び資機材についてのガ国による取扱については調査員による。資機材譲与リスト作成を経て在日本大使館を通じ別途協議を実施するものとする。
- 5) 当該調査の目的を推進し調査船及び資機材の有効なる使用方法及び運用等については必要に応じ、両関係者間で相互に協議し実施するものとする。

PROCES VERBAL

SUR LA PREMIERE PHASE D'ETUDES PRELIMINAIRES MENEES

PAR LES EXPERTS JAPONAIS

EN ASSOCIATION AVEC LES AGENT DU SERVICE DES PECHEES

SUR LE DEVELOPPEMENT DES PECHEES AU GABON

L'an mil neuf cent soixante dix huit, et les 20 février, 9 mars et 21 mars 1978, se sont effectués dans les départements d'Omboué, Port-Gentil et Lambaréné, des voyages d'études sur les possibilités de ravitaillement et d'hébergement, surtout dans les localités ci-dessus citées.

Etaient présents :

- Du côté japonais :

| | | |
|---------------|---|--------------------------------|
| Hiroshi SAITO |) | Experts japonais |
| Zensaku NODA |) | |
| Teruo OKADA | | Conseiller Ambassade du Japon |
| Soji SUZUKI | | Troisième Secrétaire Ambassade |

- Du côté gabonais :

| | |
|----------------------|---------------------------------|
| Jean-Julien BIGNUMBA | Directeur des Chasses et Pêches |
| Antoine NKOCHO EYI | Chef Service des Pêches |
| Jacob ONDO EYI | Service des Pêches |
| Félix BIWOMO | Service des Pêches |

Nous soussignés, personnalités et experts de pêche, exécutons par les présentes, le bilan des travaux préliminaires effectués du 10 février au 27 mars 1978 sur l'étude du développement des pêches au Gabon.

Les problèmes concernant l'installation de cette mission d'études au mois d'avril ont été minutieusement traités ; le matériel adéquat au démarrage des travaux devant être installé avant cette date. Diverses négociations dans ce sens ont été entreprises dans les Agences et Bureaux impliqués, afin de faire démarrer le programme le plus tôt possible, tous les problèmes non résolus pouvant être revus au fur et à mesure.

Certaines anomalies constatées sont passibles d'un redressement immédiat et des efforts sont déployés dans ce sens afin de débarrasser le maximum de difficultés qui peuvent entraver le bon déroulement des travaux.

Les parties -abonaise et japonaise se sont entendues sur les points suivants :

- 1 - Révision du problème de logement des experts avant les dates prévues pour le démarrage des travaux ;
- 2 - Une garantie sur la libre circulation du navire sur tous les ports et rades du Gabon, notamment de Libreville, Port-Gentil, Lambaréné et Omboué ;
- 3 - Le personnel pêcheur gabonais sera sélectionné d'avance et reconnu par le Gouvernement gabonais pour des mesures de sécurité.
- 4 - L'éventualité d'usage d'un horsbord n'est pas à écarter.
- 5 - Les experts assureront eux-mêmes les opérations concernant les zones de pêche à étudier et tiendront informées les autorités compétentes du Ministère des Eaux et Forêts, au fur et à mesure
- 6 - La partie gabonaise recommande l'envoi d'un expert japonais sachant parler français.

D'autre part, les experts japonais et gabonais se sont rendus à Port-Gentil et à Lambaréné pour étudier les possibilités d'un changement de base, compte-tenu des difficultés d'hébergement rencontrées à Omboué.

Les deux parties ont eu leurs derniers entretiens le 24 mars 1978 sur le bilan des travaux, comme relaté dans le présent procès-verbal.

Fait à LIBREVILLE, le 24 mars 1978

HIROSHI SAITO
Chef de délégation

JEAN JULEIN BIGNUMBA
Directeur des Chasses et Pêches

R A P P E L

INTRODUCTION

Nous soussignés, personnalités et experts de pêche, du 10 février 1978 au 27 mars 1978, le bilan effectué durant notre séjour au Gabon. Ensuite, l'étude sur le développement des ressources marines côtières gabonaises.

Nous avons minutieusement traité divers problèmes concernant l'installation de la Mission de Pêches au Gabon. Vers avril 1978, nous installerons tout le matériel nécessaire pour la pêche. Une décision tout à fait adéquate a été prise, afin que les opérations puissent être effectuées le plus tôt possible, sans les divers Bureaux ou Agences s'occupant de la pêche, plusieurs contacts ont été pris à Libreville. Toutes solutions n'étant pas résolues peuvent être revues au fur et à mesure.

Ensuite, un court séjour a été effectué dans la ville économique du Gabon, particulièrement Port Gentil, pour élaborer divers problèmes de pêche, ainsi la zone spécifiée de pêche d'Omboué. La découverte a été presque faite et la région d'Omboué serait quasiment abordable à la pêche aux côtés d'Omboué. Toutes les mesures ont été prises et il ne reste que l'installation de la main-d'oeuvre. Les résultats obtenus sont tout à fait possibles aux opérations de pêche à Omboué.

Par ailleurs, les experts ont constaté plusieurs anomalies, mais passagères. Les prochaines études seront basées surtout à la zone des opérations, pour éviter tout retard.

Nous serions toujours en mesure d'effectuer et surtout avec tous nos efforts, débarrasser toute la nomenclature des difficultés Concernant logement des experts, tout sera à la charge gabonaise ; pour essayer de réétudier le problème, toutes les solutions seront abordées en détail. La garantie de sécurité et de protection des experts, ainsi les matériels de pêche, tout doit être vu.

CONCLUSION ; veuillez vérifier avec votre aimable attention les problèmes ci-dessus exposés.

I - Concernant la zôna d'eaux étudiées :

- 1/ - Difficultés eaux marines et voir de près sur l'étude de la base centrale ainsi la prise d'essai d'Omboué out été traigé avec tous les détails.
- 2/ - Pour la base centrale d'étude, après Omboué nous sommes revenus à Libreville après le sondage.
- 3/ - Concernant le principal objectif d'étude effectué à Omboué, nous sommes rentrés à Libreville.

II - Voyons la prise en charge gabonaise.

- 1/ - Sur les problèmes étudiés et surtout la période d'essai joue un rôle substantiel, vis à vis de la vie des travailleurs et surtout l'installation permanente nous est surtout important. (Police, zône port et main-d'oeuvre)
- 2/ - Il faudrait également une prévision d'une pinasse ou horsbord.
- 3/ - Pour la protection des experts gabonais, particulièrement les gens employés à bord, toute doivent être au Gouvernement gabonais.
- 4/ - Concernant quelques résultats obtenus à Omboué, tout est possible.
- 5/ - Les logements pour personnel doivent être vus avec précaution et cette question est quasiment importante. Tout ceci doit être rézolu avec détail et disponibilité indispensable.
- 6/ - Etude pratique aux aônes vues d'Omboué
- 7/ - Etudes d'eaux marines
- 8/ - Tout ceci, la Direction au Gabon doit signer et attester. (Douane, marine marchande, examen de documents de pêche).

III - Etude de la zône de pêche

- 1/ - Les experts de pêche doivent eux-mêmes assurer les opérations concernant les zônes de pêche.
- 2/ - D'après l'examen établi, pour les opérations à Omboué, tout sera informé au fur et à mesure.
- 3/ - L'étude de la zône étant effectués, la période durant notre séjour était fructueuse ; surtout les poissons ont présenté une vogue formidable.

- 4/ - Concernant tout le programme ci-dessus énuméré, tout doit être en accord et assigné et prêt sitôt par la Direction des Pêches au Gabon, pour toute information sur la pêche doit être annexée au dossier, ainsi que remis à l'Ambassade du Japon pour approbation.
- 5/ - Après avoir examiné les zones dont nous avons effectué, toutes les solutions sont tout à fait résolues et nous avons des résultats parcimoniaux concernant notre région d'étude de Pêche au Gabon.

(口上書訳文)

(3) 日本大使館 リービルビル

在ガボン日本大使館はガボン共和国外務、協力省に対し敬意を表するとともに、漁業の分野における日本、ガボン技術協力の現状について、日本人専門家2名により作成された報告書、別添の上、同省に報告し、且つ両国間協力が直面する難関を克服するため、同省の措置を要請する光榮を有する。

本両国間協力は1977年3月に開始されたものである。日本よりの調査船は1978年5月に到着。現在計画の施行が開始されようとしている。

しかるに不幸にして、作業プログラムに予定された計画を準備するに当り、次のような数多の困難があることが判明した。

- (1) オムボエ冷凍工場は故障中である。
- (2) オムボエ及びポートジェンテには宿舎が斂除している。
- (3) ガボン人漁夫の選定がなされていない。
- (4) 2名の日本人専門家のためのリービルビルにおける宿泊費が負担されていない。
- (5) 上記専門家の交通費が負担されていない。
- (6) 当該調査船の碇泊が困難となっている。

上記の困難を克服するため、日本大使館は、ガボンの当局に対し、2名の日本人専門家が狩猟水産局の新人員に漁船の操業及び漁業実務を教育し、且つまた可能ならば、リービルビル居住のガボン人漁業者に漁法を教育することも可能である旨の提案を行なう。

日本大使館は外務、協力省に対し重ね敬表を表す。

リービルビル 1978年7月19日

ガボン共和国外務、協力省
アジア局

(付属書あり)

(報告書訳文)

(3) 漁業分野における日本ガボン協力

1. 1977年3月9日

漁業調査団のガボンへの派遣(専門家8名)

期 間 : 3週間

調査個所 : ランバレネ、オムボエ、マコンバ

提 案 (i) 漁業全般についての日本専門家の派遣

(ii) 冷凍設備の現状調査

(iii) 水産資源研究

(iv) 結果報告

2. 1977年9月3日

専門家2名の派遣(斉藤、柏尾氏)

作業プログラムの作成を行うため、協力事業内容

水産資源に関する調査及び結果報告

費用の分担区分

(i) ガボン側分担 技術者3名、漁夫3名、宿舍、関税、税金の免除、交通手段(自動車)通信手段、研究事務所、資材置場

(ii) 日本側分担 調査船、同船の燃料費、専門家2名の派遣必要機材の送付(資材)、調査結果の分析

3. 1978年2月10日

本プログラム実施準備のため専門家2名の派遣(斉藤、野田氏)

期 間 : 1カ月半

(i) ポートジェンテ、ランバレネ、オムボエにおいて物資補給、宿泊設備及び地元漁民の徴募の可能性について調査(冷凍工場の故障が発見された)

(ii) 両当事者の費用分担が、予定の日程までに、準備完了となるやについての覚え書の作成

4. 1978年5月7日

調査漁船及び機材の到着

5. 1978年5月27日

専門家2名の派遣(斉藤、氏家氏)

調査船及び機材の通関の困難

通関手続費用の支払いの困難

6. 1978年7月7日

調査船及び機材の通関終了

7. 現在の難関及びこれについての対策

(イ) 難関 ホテル宿泊費用の支払問題 $470,000\text{CFA} \times 2人 = 940,000\text{CFA}$
(1978年7月10日までの分)

自動車借上費の支払問題 $400,000\text{CFA}$ (1978年7月10日まで)

事務所の設置なし

オムボエ及びポートジェンテにおける宿舍施設なし

漁港における碇泊の困難

(ロ) 対策 冷凍工場の修理については国営会社 PROND GABON と目下検討中

地元漁民についてはラジオにより募集中

カウンターパート予定者としては3名のガボン人技術者(旧学生)が手配できる

日本人専門家2名は上記ガボン技術者に船の操船術を教えることが考えられる。

AMBASSADE DU JAPON

LIBREVILLE

GAB/AE/133/78/0/P

L'Ambassade du Japon au Gabon présente ses meilleurs compliments au Ministère des Affaires Etrangères et de la Coopération de la République Gabonaise et a l'honneur de l'informer de la situation actuelle de la Coopération technique nippon-gabonaise dans le domaine de la pêche avec un compte-rendu ci-joint établi par les deux experts japonais, et de solliciter le Ministère d'intervenir pour surmonter les difficultés que la coopération entre nos deux pays rencontre.

Cette coopération a débuté au mois de mars 1977. Le bateau de pêche est arrivé du Japon au mois de mai 1978 et actuellement l'exécution du projet doit commencer. Malheureusement il est constaté de nombreuses difficultés dans la préparation de ce projet qui a été prévue dans les programmes des travaux :

- 1) Frigorifiques à Omboué en panne.
- 2) Manque de logement à Omboué et Port-Gentil.
- 3) Pas de sélection de pêcheurs gabonais.
- 4) Non paiement des frais de logement à Libreville des deux experts japonais.
- 5) Non paiement des moyens de transport pour les dits-experts.
- 6) Difficulté d'amarrage du bateau de pêche.

Afin de surmonter les difficultés énumérées ci-dessus, l'Ambassade du Japon propose aux Autorités compétentes gabonaises, que les deux experts japonais enseignent les manoeuvres du bateau et les pratiques de pêche aux nouveaux membres de la Direction des Chasses et Pêches et, si possible, puissent enseigner également les méthodes de pêche à des pêcheurs gabonais résidant à Libreville.

L'Ambassade du Japon saisit cette occasion pour renouveler au Ministère des Affaires Etrangères et de la Coopération, les assurances de sa haute considération.

Libreville, le 19

MINISTERE DES AFFAIRES ETRANGERES ET DE LA COOPERATION
DE LA REPUBLIQUE GABONAISE

DIRECTION DU DEPARTEMENT "ASIE"

LIBREVILLE

Annexe : mentionnée

C O M P T E - R E N D U

COOPERATION TECHNIQUE NIPPO-GABONAISE DANS LE DOMAINE

DE LA PECHE

1/ - Le 6 mars 1977

Envoi d'une Mission d'Etude sur la pêche au Gabon (8 experts)

Dure : trois semaines.

Etude: à LAMBARENE' OMBOUÉ' MAYUMBA

Propositions :

- a) - envoi d'un expert japonais sur la pêche en général
- b) - Etudes sur la situation actuelle d'équipement des frigorifiques
- c) - Recherche des ressources maritimes
- d) - Démonstrations.

2/ - Le 3 septembre 1977

Envoi de deux experts (MM. SAITO et KASIO)
pour l'élaboration des programmes de travaux.

Ensemble de la coopération : Etudes sur les ressources
maritimes et démonstrations.

Répartition des charges :

a) - à la charge du Gabon :

- 3 techniciens
- 3 pêcheurs
- Logement
- Exemption des droits et taxes
- Transport (voiture)
- Moyens de communication
- Bureau d'Etudes
- Entrepôt pour matériel

b) - à la charge du Japon :

- Navire d'études
- Frais de combustibles du navire
- Envoi de deux experts
- Envoi des appareils nécessaires (matériel)
- Analyse des résultats

3/ - Le 10 février 1978

Envoi des deux experts (MM. SAITO et NODA) pour la préparation d'exécution
de ce programme - durée : un mois et demi.

a) - à Port Gentil, Lambaréné et Omboué. Voyage d'études sur les possibilités de ravitaillement, d'hébergement, et pour le recrutement de pêcheurs locaux.

(..) - ils découvrent que les frigorifiques sont en panne.

b) - Procès-verbal fait savoir que, préalablement aux dates envisagées, toutes les charges des deux côtés seront prêtes

4/ - Le 7 mai 1978

Arrivée du bateau de pêche et des matériels.

5/ - Le 27 mai 1978

Envoi des deux experts : MM. SAITO et UJIE

(..) - difficultés pour le dédouanement du bateau de pêche et les matériels

- discussion pour le paiement des frais de dédouanement.

6/ - le 7 juillet 1978

Sortie du bateau de pêche et des matériels (sortie de la douane)

7/ - Difficultés actuelles et Mesures prévues

a) - Difficultés :

Règlement des frais d'hôtel (OKOUME PALACE).
470.000 F/CFA x 2 personnes = 940.000 F/CFA
(jusqu'au 10 juillet 1978)

Règlement des frais de location de voiture
(jusqu'au 10 juillet 1978) = 400.000 F/CFA

Pas d'installation de bureau

Pas de logement à OMBOUE et PORT GENTIL

Difficulté d'amarrage du bateau au Port de Pêche.

b) - Mesures prévues :

La réparation des frigorifiques est en cours de discussion avec la Société gouvernementale P -GABON

Appel fait par radio pour des pêcheurs locaux

Mise à disposition de trois techniciens gabonais (anciens élèves), qui seront appelés en contre-partie

Les deux techniciens japonais envisagent d'apprendre à ces techniciens gabonais la conduite du bateau.

JICA